

諏訪市長

金子 ゆかり 様

平成 27 年度
諏訪市に対する要望事項
および 提言事項

諏訪商工会議所

平成 27 年度諏訪市市政に対する提言・要望事項

諏訪商工会議所

諏訪経済は、アベノミクスによる明るさに見えるものの、実態は、昨年の消費税増税および円安に伴う原料高の影響で、非常に厳しい状態が継続しております。

また、最近注目の人口減少においても、当然に諏訪は例外ではなく現状のトレンドが継続すると、人口減少と高齢化により、今後 25 年間に 30%以上、諏訪経済の規模が縮小すると言われております。

個人商店は元より、大規模小売店も閉鎖、撤退することとなり、当該閉鎖撤退が、さらに人口の社会的流出に拍車をかけ、事態はどんどん悪化する事が想定されます。

衰退は緩やかですが容赦ない大きな流れです。

危機感を持つことが一番大事で有ると思います。

いま危機感を持ち対応策を打たないと、ゆでガエル状況になってしまう事は明白です。

人口減少の最大の問題点は、青年層の社会的流出です。進学等で首都圏に出て行って帰ってこない事です。主として、諏訪経済の将来に、展望と確信が持てない事によると思われまます。

何よりも、**諏訪の将来性あるビジョンを確実に描き**、様々な種類の雇用を作り出すことが経済界、行政の最大の責務です。

諏訪は他の地域と異なり、世界に冠たる精密技術の集積地であるとともに、全国ブランドの観光資源が目白押しにあり、さらに、冬の寒さに鍛えられた粘り強い人材にも恵まれています。

過去の歴史を振り返って見ても、われわれの先祖は様々な経済変動に対して必死に努力して未来を切り開いてきました。

諏訪の恵まれた資源に鑑み、勝ち残る事は絶対に可能であると確信いたします。

こうした中、各地域は、地方創生の掛け声の元、地方創生総合戦略の立案に取り組んでおります。

しかし、そのほとんどは、従来の長期・中期計画のモデファイに留まり、絆、連携、おもてなし等をキーワードとした、実行効果に有効と思えない作文レベルのものが多いたのが実情です。今までの総花的な計画では、人口減少＝衰退をとどめる事は出来ないと思います。

リスクを含んだ、未来を確実に開く地方創生総合戦略を作る必要があります。

また、地方創生を、農業再生、B級グランプリ、ユルキャラ等で描く番組がマスコミで氾濫しています。

しかし地方創生とは、地方経済を支える産業を興していく事が本筋でなければなりません。

家業や零細産業ではなく、新しい競争力のある産業を作り出す事です。
生産性、競争力、規模が揃って初めて地方経済を支える産業と成ります。

最近の行政の目玉として、CCRC=リタイアメントシティー構想があります。

石破地方創生担当大臣が、圧倒的に力を入れている構想です。2016年からモデル事業が開始される予定です。

観光地であり住環境として、アクティブシニアが第2の人生を過ごすのには、極めて適しているのが諏訪市であると思います。

是非この構想にのり、諏訪市の未来を開くことを強く切望いたします。

このような危機的状況下では、企業体で考えるならば、将来の危機的状況を先取りし、社長の下に、自社の精鋭を集めプロジェクトチームを作り、自社の強みと、マーケットの状況を分析し、長期的観点より、将来ドメインとなるべき業務を明確にし、限りある資源を選択と集中し、削減すべきところは削減し、トップダウンで社長の強力なリーダーシップの元、改革を断行することとなります。

当然に、リスクは大きいし、強固な反対もあります。

実行段階では、着眼大局着手小局で、様子を見ながら実行し、絶えず改善を図っていくことがベースとなります。

地方創生とは、実効性のある地域活性化策の提案できる地域 ⇒ 支援

実行性のある地域活性化策の提案出来ない地域 ⇒ 消滅しかない

地域間競争が激化して、その結果は地域格差拡大となります。

全国の各都市に514商工会議所がありますが、地方創生で生き残るのは、100程度であると推測されます。残りの400程度の都市は縮小していくしかないと思います

商工会議所は、要望するだけの圧力団体に留まることなく、諏訪の再生のため、自ら将来のビジョンを明確にし、様々な課題についても、諏訪市と連携を密にし積極的に関わり、主体的に行動する団体です。

また、特定業種の団体と異なり、様々な商工業者をまとめる事のできる団体でもあります。

なによりも、経済界を代表する団体として、諏訪の経済に責任を持ち、諏訪経済の再生をミッションとしております。

市と商工会議所は車の両輪で有ると考えております。

商工会議所は、諏訪市の商工業者＝経済を基盤とし、その繁栄に責任を持つ団体として基礎自治体である諏訪市を全面的にバックアップし、諏訪市の経済再生に向かい、諏訪市の繁栄のため全力投入する事を誓います。

今年度より、提言事項と要望事項に分けましてお願いすることといたしました。

- ・ **提言事項**は、諏訪市を花火に街にする C R C 構想等 大きな方向性についての諏訪商工会議所の意見です。
諏訪市と方向性でも共有したいと思っています。
諏訪市よりコメントを頂きたいと思います。
- ・ **要望事項**はやるべきことが明確な案件です。
諏訪市より 実施可否 スケジュール 担当者等の回答を得る案件です。
実施可の案件については、
今後 P D C A を回し確実な実施を担保していきたいと思っております。

以上

(目 次)

I. 要望事項

(やるべきことが明確な案件で諏訪市より実施の可否 担当部署 スケジュール等の回答を得る事項)

1. 諏訪市の地方創生地方版総合戦略に、
リタイアメントシティー構想 (CCRC) を盛り込む件
2. 旧東洋バルヴ跡地の有効利用検討に参画する件
3. JR中央東線について、検討・研究組織を立ち上げる件
4. ふるさと納税制度の活用を図る件
5. 諏訪湖畔の駐車場を増設する件
6. 上諏訪駅前及び西口の整備を図る件
7. 諏訪丸光跡地とスワプラザ再開発プロジェクト (2014.02.04)
に基づき、新しいビルを諏訪の玄関口として相応しい建物とする件 (継続案件)
8. 地域通貨を導入し、ボランティア活動の活性化を図る件
9. 諏訪湖サービスエリア・スマートインターチェンジの早期建設促進
10. 国道 20 号線バイパスの建設促進
11. SUWAプレミアムに食品等を追加する件
12. 諏訪市産業振興条例を制定する件
13. キャッシュレス社会推進に向けた検討会の設置について
14. 市内集客イベントの再検討
15. 地域を担う建設業に関する建設機械運転免許取得助成金を新設する件

II. 提言事項

(大きな方向についての商工会議所としての意見 諏訪市としてのコメントを得る)

1. 諏訪圏 6 市町村の連携を強化すべきである
2. 諏訪市は花火の街を目指すべきである
3. 諏訪市はCCRC構想を実現すべきである
4. 諏訪湖および上諏訪温泉街の魅力向上を図るべきである
5. 霧ヶ峰を全国観光地として魅力向上を図るべきである
6. 諏訪市は、諏訪圏工業メッセの継続開催も含め
コンベンションシティーを目指すべきである

I. 要望事項

(やるべきことが明確な案件で諏訪市より実施の要否 担当部署 スケジュール等の回答を得る事項)

1. 諏訪市の地方創生地方版総合戦略に、

リタイアメントシティー構想(CCRC)を盛り込む件

- ・28年3月までに、諏訪市の努力義務として地方創生地方版総合戦略の立案が政府より要望されている。

政府の目が地方に向くのは、田中角栄の日本列島改造、竹下登の故郷創生事業に次いで3回目となる。是非この機会に乗り、諏訪経済の再生を図らなければならない。

経済再生には何よりも若い人に対するバリエーションのある雇用の確保が必要不可欠である。

しかし、工業、商業、観光については、当然強化を図るとしても、雇用に対する大きな貢献は期待できない。

諏訪の恵まれた観光資源、および首都圏の今後の介護難民、医療難民の発生を想定すれば、現在石破大臣が非常に力を入れているCCRC構想は諏訪にとり最適であると思う。是非地方創生戦略にとり入れる事を検討願いたい。

なお、2016年には、CCRCのモデル事業が開始される予定となっている。

- ・CCRCについては、特に移住促進(空家バンク等)関係機関と協力した推進体制をとる必要がある。
- ・CCRCより派生が想定される雇用は、主としてサービス分野で、その主体は、女性である。女性が働きやすい環境を整える事が必要である。特に育児等の分野には格段の配慮が必要である。

(CCRC構想とは)

首都圏の元気で裕福なシルバー層に、諏訪に移住してもらい、充実した第2の人生(知的レベル・趣味に適合したコミュニティへの参加、ボランティア 勉強 教える事 ゴルフ等)を送ってもらい。その消費金額で、経済の活性化および、バリエーションのある雇用機会を作ることにより、若者定住を実現し、人口減少に歯止めをかける構想である。

2. 旧東洋バルヴ跡地の有効利用検討に参画する件

現在の使用状況は、諏訪圏工業メッセの3日間 うめえもの市の2日間等に限られ、ほとんどは空き地同様である。諏訪に残された最後の一等地。

当該跡地の有効利用の検討会に商工会議所として参画したい。

3. J R中央東線について、検討・研究組織を立ち上げる件

J R中央東線については、連立交、橋上駅等、諏訪市の命運を左右する大問題がある。現在「上諏訪駅」は中央東線で最も古く建て直す順番になっている。

しかし、様々な意見があり遅々として進んでいない。

原因は、諏訪市が中心となる正式組織で検討・研究されていない点にある。

基礎自治体である諏訪市が中心となり、検討・研究会組織を立ち上げる事を要望したい。長野県、J Rにも参加を要望したい。

諏訪市を中心として、関連団体が参加し、必要十分なデータを入手し様々な観点より検討し、しっかりとした意思決定をしていけば、当該プロジェクトは進展する。

橋上駅にするか、連立交にするかは、その検討組織で検討研究すべきである。

4. ふるさと納税制度の活用を図る件

地方創生のためには、費用がかなりかかる事が想定される。

当該資金の捻出を、現在全国的に流行している、「ふるさと納税制度」により行ったらどうか。諏訪に愛着を持っている人はかなり多いと思う。

(いくら納税しても、納税者の負担が2,000円に留まる。)

花火に関連して、創意工夫し、花火券等を景品に使えば数億円程度の資金を集める事は可能であると思う。

ちなみに、2014年寄附金額の順位は次の通り（ふるさとチョイス調べ）

	金 額	件数
長崎県平戸市	1,462,726,582 円	36,070 件
佐賀県玄海町	1,066,629,652 円	49,778 件
北海道上士幌町	974,753,618 円	54,648 件
宮崎県綾町	943,977,930 円	64,356 件
山形県天童市	780,874,582 円	58,290 件
島根県浜田市	726,991,000 円	47,279 件
長野県飯山市	627,272,586 円	39,863 件

長野県では、飯山市が金額ベースで7位となっている。

5. 諏訪湖畔の駐車場を増設する件

諏訪湖の周辺には、観光客数に比して、駐車場が少ない。

そこで、ヨットハーバー駐車場の諏訪湖寄りのグラウンドを駐車場とする事をお願いしたい。

当該グラウンドを駐車場として、観光客の利便に供すると共に、当該場所より諏訪湖から高島城等を回る観光ルートを作りたい。

また、今後考えられる湖周のサイクリング等の重要な駐車場にもなると考えられる。さらに、諏訪湖サービスエリア・スマートインターチェンジ開通にともなう、駐車場ニーズ増加への対応策ともなる。

なお、グランドの代替としては、諏訪湖スタジアム隣接競技場の利用促進を図る事により対応可能であるとする。

6. 上諏訪駅前及び西口の整備を図る件

- ・ 諏訪の玄関口である上諏訪駅前及び西口を交通の要（ターミナル）とし公共交通機関の乗り継ぎスペースや送迎スペースの確保、市民や観光客の利便性向上のため整備してほしい。

なお、当該整備は前記3のJR中央東線の問題と関連して進める必要がある。

7. 諏訪丸光跡地とスワプラザ再開発プロジェクト（2014.02.04）

に基づき、新しいビルを諏訪の玄関口として相応しい建物とする件（継続案件）

- ・ テナントの移転等はほぼ完了し、丸光跡の建物取り壊しも開始された。

当初の予定通り、当該プロジェクトにおいて、商工業者の立場より新しい建物に対する意見等をまとめ、開発業者と折衝して諏訪市の玄関口として、ふさわしい建物になるよう尽力したい。

8. 地域通貨を導入し、ボランティア活動の活性化を図る件

アクティブシニアの増加に伴い、ボランティア活動を行いたいとのニーズは高まっている。

しかし、実際にボランティアに参加するにはかなり抵抗がある。

当該抵抗を乗り越えるために、参加者に地域通貨を与える事は有効であると思う。

（逗子市等の先進事例でも有効に活用されていた）

当該目的での、地域通貨の導入とボランティア活動の活性化策を検討願いたい。

現在、花火大会後のボランティア、諏訪湖マラソンのボランティアには試行的に「すわともカード」のポイントを発行している。

ボランティアのイメージとしては、完全に無償のボランティアと、地域通貨発行のボランティアの二本立てとなる。

CCRCのコミュニティーには、ボランティア活動は不可欠であるし、如何にボランティアを活発にするかが、諏訪市においても、今後の一番重要な社会的テーマになると思う。

9. 諏訪湖サービスエリア・スマートインターチェンジの早期建設促進

中央自動車道路の有効活用、諏訪インターチェンジ周辺の渋滞緩和、
諏訪湖へのアクセス向上を図るため、早期に建設促進してほしい。

10. 国道20号線バイパスの建設促進

市街地の渋滞緩和や災害時の交通機能の確保を図るため、早期にルートを示し
国道20号線諏訪バイパスの建設促進をしてほしい。

11. SUWAプレミアムに食品等を追加する件

- ・SUWAブランドに、諏訪味噌ブランドを追加する事を検討願いたい。
諏訪味噌の出荷量が多いが、知名度は信州味噌の一部に成っており低い。
諏訪味噌の高級ブランドをSUWAプレミアムとして確立したい。
また、当該諏訪味噌を手始めとして、各種食料品の高級ブランドとして、
SUWAプレミアムの拡充を図りたい。

12. 諏訪市産業振興条例を制定する件

- ・産業の振興は、経済活動を活性化させ、地域に活力をもたらすなど、
市民生活を向上させる役割を担っています。
市内産業の発展を図るためには、市域特性を活かした産業振興の在り方や
今後の方向性、市、事業者、経済団体、市民の役割など、産業の振興に関する
基本的事項を定めることにより、その基盤の安定、強化および健全な発展を促
進し、もって地域社会の発展を目指すため諏訪市産業振興条例の制定をお願い
したい。
- ・長野県中小企業振興条例（平成26年3月20日施行）
全国各市町村でも、政府の中小企業重視の方針に基づき、今後当該条例の制定
がなされる見込です。
(参考になる振興条例 吹田市 船橋市)

13. キャッシュレス社会推進に向けた検討会の設置について

- ・SUICA, WAON等のプリペイドカードの爆発的拡大、消費税8%、クレジ
ットカード利用、お財布携帯等も寄与して、日本経済は急速にキャッシュレス
社会に向かいつつある。
- ・特に、首都圏のキャッシュレス化は著しい。また、インバウンドでの買い物も
ほとんどはクレジットカード決済となってきた。
- ・諏訪市内商店等においては、当該キャッシュレス化の大きな流れに、十分に対
応できないのが現実である。

- ・ 諏訪地区全体では、ポイントカードの統一化検討が諏訪地方事務所主催で開始されたところである。
- ・ 諏訪商工会議所として、諏訪市と共にキャッシュレス社会推進に向けた検討会を立ち上げたい。

1 4. 市内集客イベントの再検討（平成 28 年度より実施したい）

- ・ 諏訪市（諏訪市が事務局となる団体）が主催する集客イベント（うめえもん市・農業祭・子どもまつり等）について、ターゲットは諏訪市を中心とする諏訪圏住民として、商業、食品業、飲食業、不動産業、建設業のPRに加え、市民生活向上を目的とした集客イベントとして再構築し諏訪活性化を図りたい。
- ・ 実施イメージ
 - * 市内事業所の取扱商品・サービス・商業・食品業・飲食業・不動産業・建設業等のPRを目的としたブースの設置
 - * 医療・介護等のPRを目的としたブースの設置
 - * 広報紙等では伝えきれない諏訪市施策（健康維持、ゴミ減量、地域貢献活動等）をPRするブースの設置
 - * 市民が家族らと一日楽しく過ごせる催事の実施

1 5. 地域を担う建設業に関する建設機械運転免許取得助成金を新設する件

- ・ 道路交通法等の改正により、ダンプやトラックを運転するための中型・大型・大型特殊等の運転免許取得が高価となっている事が原因で、当該取得者が減少している。その結果、資格保有従事者が高齢化、減少し担い手の育成が急務となっている。
- ・ 今後、当該資格保有建設業従事者の減少により、雪かき等のインフラ維持、災害復興時の遅延にも結び着く可能性が高い。
- ・ 当該状況を改善するため、建設業に対する運転免許資格取得に対して、資格取得助成金の新設検討をお願いしたい。
- ・ 助成金の内容（札幌市建設機械運転免許取得助成金交付要綱を参考とした）
 - ① 補助対象者

諏訪市内に本社を置く、建設業を営む中小企業で、従業員の建設業にかかる運転免許資格取得に要する費用を負担する中小企業
 - ② 補助対象経費

運転免許資格取得に関する受験料及び講習会受講料
補助率は 1/2 以内、かつ 20 万円を上限とする。
 - ③ 対象となる資格

中型・大型・大型特殊等の運転免許資格

II. 提言事項

(大きな方向性についての商工会議所としての意見 諏訪市としてのコメントを得る)

1. 諏訪圏 6 市町村の連携を強化すべきである。

- ・ 諏訪市、岡谷市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村は、古来より諏訪と呼ばれ、江戸時代においては高島藩の領地であった。

また、経済的、諏訪大社等の歴史的、文化的、高校が同一通学区で有ったこと等により、住民の意識面でも一体感は強い。将来的には合併を目指すべきであるが、現在は、行政だけが、6 市町村に分かれている。

現在の大きな流れとして、経済圏同士の大競争の時代に入った。

松本経済圏、甲府経済圏との間に挟まれており、諏訪経済圏としての存在感を確固たるものにしなければ、やがて諏訪は、衰退の速度を加速することになるのは確実である。

- ・ 何よりも、諏訪経済圏の枠で、物事を考える事が基本とならなければ、この大競争時代を生き抜いていくことはできない。

この観点より、6 市町村の連携を強化し、事務レベルはもとより、観光工業を含む産業振興まで拡大すべきである。

- ・ 特に観光においては、広域観光の観点からも、諏訪圏が一体となった取組が求められる。また、その前提として、諏訪市の観光関連組織（観光協会、諏訪市、旅館組合、商工会議所）における情報発信、誘致等の一元化を図るべきである。現状は、イベントや事業が各機関の経営資源を使い個別的に実施されているため、効率のよい、有効な情報発信や運営がなされていない。

- ・ 将来的には、6 市町村合併も検討すべきである

昨年の地方自治法改正で、人口のダムを作るために、

中核市の要件が 30 万人以上⇒20 万人以上に変更された、今後は当該中核市に集中的に資金を投入することとなると思われる。

現状の諏訪圏の人口は 20 万人前後、合併により中核市となり、長野県における長野経済圏、松本経済圏 に次ぐ 3 番目の経済圏になるべきである。

2. 諏訪市は花火の街を目指すべきである

- ・ 諏訪の花火は、全国に鳴り響いていて全国区のブランドである。

特に 8 月 15 日の花火大会の宣伝効果は大きい。

さらに現在は、8 月中は、20 : 30 より 45 分まで毎日花火を上げている。

- ・ 諏訪湖花火のブランド力を 100%活用するため一年中毎日花火を上げる事、または、シーズン毎に一定期間を設定し花火を上げる事（例えば、2 月頃の澄んだ空気の中での冬の花火）も有効であると思う。

- ・花火は、宿泊を増やすこと（宿泊客消費金額は@11,650円 日帰客@2,250円）に結び付き、観光消費額が増加する。
- ・花火が見られる事は、諏訪を宿泊地として選ぶ時に非常に大きな誘因となる。
- ・花火は夜みることにより、宿泊が必然となる。
- ・宿泊客は、花火を見に宿外にでることにより、外呑等の波及効果が期待できる。飲み屋 スナック クラブ等の売り上げが増加する。
- ・他観光地で湖があり、花火を連続日数あげているところはほとんどない、**絶対的優位であり、しかも真似ができない。**（長岡、大曲でも年1から2回程度）
- ・さらに、毎日あげれば、平日の稼働率の向上に貢献が期待できる。また、日程の選定に当たり、はずれがないことにより、諏訪への吸引力は増す。
- ・冬場においても花火を上げることにより、閑散時の稼働率の向上が期待できる。
- ・花火をあげる日数を増加することにより、諏訪への居住、マンション建設、マンション購入の大きな誘因となる ⇒ 人口増
- ・**資金面については、花火目的のふるさと納税制度で確保したらどうか**
- ・花火を上げる日数を増加する事は、観光面のみならず、CCRC構想実現にも有効
- ・コスト面 音がうるさい 渡り鳥に対する配慮等
時間の短縮、インターバル時間を長く調整等すれば、かなり改善される。

3. 諏訪市はCCRC構想を実現すべきである

今後の諏訪経済の活性化策としては、出産適齢期女性等を含め、若年層が多数、諏訪に住んでもらう必要がある。そのためには何よりも雇用の確保が最重要項目である。

工業・観光・商業の一層の活性化が必要である事は言うまでもないが、加えて、将来において確実な需要の拡大が想定され、**労働集約産業である医療福祉産業の一層の取組が必要である。**

諏訪には、新鮮な空気、うまい水、夏場の涼しい気候、山紫水明な環境、温泉、諏訪湖、諏訪大社に代表される歴史、中高年が自然に親しむために最適な八ヶ岳・霧ヶ峰等があり、日本語の通じる環境等を活用すれば、都市部より、**リタイアした人の第二の故郷（リタイアメントシティ）として、豊富な資金および年金を持つ、健康で豊かな高齢者を呼び込む事が十分可能であると思う。**

当該高齢者を生活および医療介護等の消費者として、さらに、元気な高齢者を労働資源とする事ができれば、若年層の雇用の確保でき諏訪は生き残るだけでなく、知的レベルの高い、当該高齢者による文化水準の向上も実現され、勝ち残ることさえ可能であると思う。

なお、移住中高年者の医療費・介護費の諏訪市負担が懸念されるところであるが、現行の住所地特例の使用、さらには、首都圏での医療・介護難民の増加に鑑み国において対応策を検討しており、市としての負担はなくなると思う。

4. 諏訪湖および上諏訪温泉街の魅力向上を図るべきである

諏訪湖は、諏訪市のシンボルである。その諏訪湖のほとりの上諏訪温泉街は、町並自体が観光資源である。磨きを掛け、魅力アップを図る必要がある。

(1) 諏訪湖の水の浄化について

諏訪湖の水質は、大きく改善されているが、水の濁りはまだままだの状況に有る。観光客の目は厳しく、水の汚さに幻滅を感じている。

水質はもとより、水のきれいさに焦点を当てた取組を強化すべきである。

田中県知事時代より中止されている諏訪湖浚渫等の再開も検討すべきである。

(2) 諏訪湖の初島を整備し、諏訪湖観光の目玉を作りたい

諏訪湖は、全国ブランドであり非常に魅力的な観光資源である。

しかし、これが諏訪湖であり、ここに来れば諏訪湖に来たことになるという場所がない。

初島を整備し、現在鳥居だけである、初島神社を恋愛成就の神社等として社屋を新設し、諏訪湖の中心・名物としたい。

(3) 上諏訪温泉街の景観維持

J R 上諏訪駅西口より、上諏訪温泉街に続く道は、景観として、温泉街としてのたたずまいとしてもかなり見劣りがする。建物の高さ制限に加え、植栽や色等も含めた、景観の確保が必要である。当該地域について景観条例を植栽や色まで拡大したい。

5. 霧ヶ峰を全国的観光地として魅力向上を図るべきである

(1) 鹿の駆除 ニッコウキスゲの復活をすべきである

・霧ヶ峰は、三菱電機のクーラーの宣伝でも有名となっている全国的ブランドである。特に、夏場のニッコウキスゲは、その見事さは感動ものであった、しかし最近ニッコウキスゲが少なくなっている。

主因は、鹿が繁殖し、ニッコウキスゲを食べることによる。

鹿の駆除（罾を仕掛けるのではなく、餌づけして、一網打尽にしたい）とボランティアによるニッコウキスゲの植え付けの実施をおこない、霧ヶ峰のニッコウキスゲの復活をはかるべきである。

(2) 強清水の廃屋の取壊しに係る行政の積極的関与

・強清水の入り口にある廃屋が長い間放置されている。景観および安全性の面で益々悪化している。行政の積極的関与により取壊しを実現願いたい。

6. 諏訪市は、諏訪圏工業メッセの継続開催も含め

コンベンションシティーを目指すべきである

諏訪圏工業メッセは、2002年に第一回が開催されてから、すでに13回開催されており、その存在は、340企業、550ブース、来場者25,000人に見られる通り、内陸部としては、日本における最大級の工業メッセとなっている。

諏訪の精密技術をベースにする物づくりの発信源であり諏訪の宝物である。

現在の開催地である諏訪湖イベントホールは、旧東洋バルヴ跡地として、2006年に20億8,000万円で諏訪市が市土地開発公社を通じて取得したもので、土地面積73,000㎡ 建物13,500㎡で、諏訪湖に面しており貴重な一等地でもある。

しかし、建物は老朽化し、雨漏りもあり、今後の使用が危ぶまれている。

県の設備が、南信に非常に薄い点も考慮し、諏訪地区の統一的要望として諏訪市にコンベンション用の建物建設を要望すべきである。

また、諏訪市は、旅館の収容能力および温泉等の魅力があり、コンベンションシティーの機能を持つのに適している。

以上を、平成27年度 諏訪市に対する要望事項および提言事項といたします。

平成27年8月20日

諏訪商工会議所
会頭 岩波寿亮